

西暦 2025 年 9 月 1 日

鶴岡協立リハビリテーション病院にて入院リハビリテーション治療を受けられたことのある方、ご家族の方、ご親戚等の方へ（後ろ向きリハビリテーション研究に関する情報）

当院では、下記の研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた情報（以下、「臨床情報」という。）を用いて行います。

本研究対象に該当される方については、上記内容についてご理解頂き、研究対象者となることにご同意頂きたくお願いいたします。本研究対象となることにご同意頂けない場合には、下記⑫の問い合わせ先までご連絡ください。

なお、個人が特定できる情報は研究には利用しません。また、研究データ上にも残りませんので、研究の実施により、あなた、またはあなたのご家族・ご親族等の個人情報が流出することはないと考えております。

また、研究の成果を公表するときにおいても個人情報を提示することはありません。

皆様方におかれましては、研究の趣旨をご理解いただき、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、問い合わせ先まで、ご連絡ください。

① 研究課題名	大腿骨近位部骨折術後患者の回復期リハビリテーション治療と日常生活動作に関する動向調査
②倫理審査委員会承認番号	25002
② 研究期間	2025 年 9 月 1 日から 2028 年 3 月 31 日まで
③ 研究の目的	大腿骨の骨折は、日本の高齢化とともに年々増えています。大腿骨を骨折すると歩けなくなるため、手術やリハビリテーションの治療がなされます。当院では手術後のリハビリテーション治療を担当しています。 骨折後も患者様がより良い生活を送れるよう、リハビリテーション治療の内容を振り返り、刷新していく必要があると考えています。また、コロナウイルスパンデミックの際に、リハビリテーション治療がどうあるべきであったのか、未だ明らかになっていません。 そこで私たちは大腿骨骨折の手術後に当院で入院リハビリテーションを受けた方の、クリニカルパスに記載されているデータ（年齢や性別、骨折型、入院日数、生活自立度、合併症など）を分析することにより、平時やパンデミック再来時に行うべきリハビリテーション治療を明らかにし